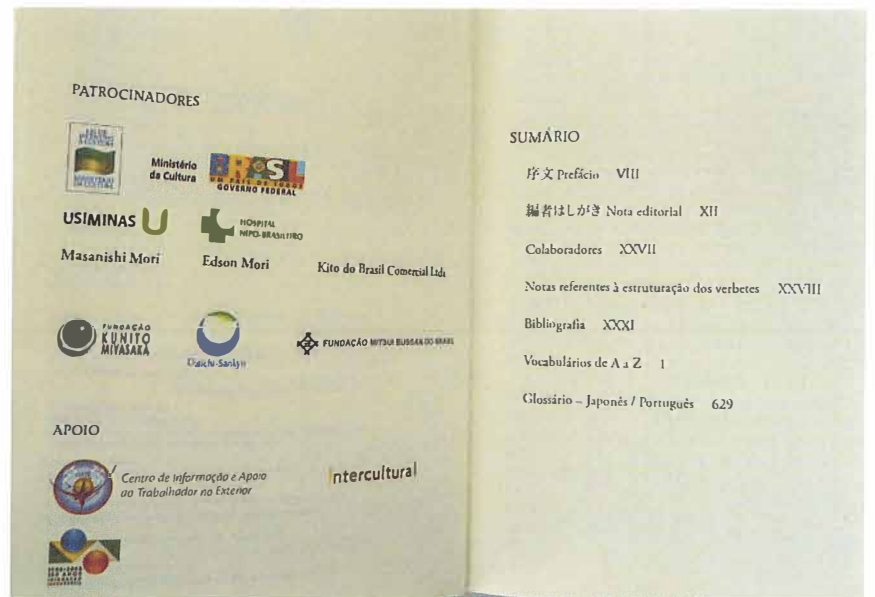


ポルトガル語・日本語・英語の医学用語辞典完成(全 861 頁)

本辞書は、ブラジル在住の移住者一世、進出企業駐在員、日本からブラジルを訪れる医師や学生、日本に留学する医学関係のブラジル人留学生や日系人従業者が同地で医療を必要とする際、医師や看護師等の医療従事者に相談するに当たり、意思の疎通に齟齬があり、頼りになる既存の辞書が少ないことから、出版しました。

監修者兼発行人 二宮正人 (共編者)

二宮正人氏略歴 サンパウロ大学法学部博士教授・ブラジル国弁護士 (東京大学大学院客員教授)



価格は 9000 円 (別途、送料 510 円が必要) 限定 30 冊

本書は、日本とブラジルの両方で活躍されている二宮先生が、10 数年をかけて実現されたもので、日本の関係者にご紹介するために、当協会が橋渡しをさせていただくことにしたものです。

申込要領

申込先 : 財団法人日伯協会

申込方法 :

住所、氏名、電話番号、部数を明記して
Info@nippaku-k.or.jp 宛お申し込みください

支払方法

お申込と同時に下記口座へのご送金ください
 入金を確認し次第発送します
 送金先

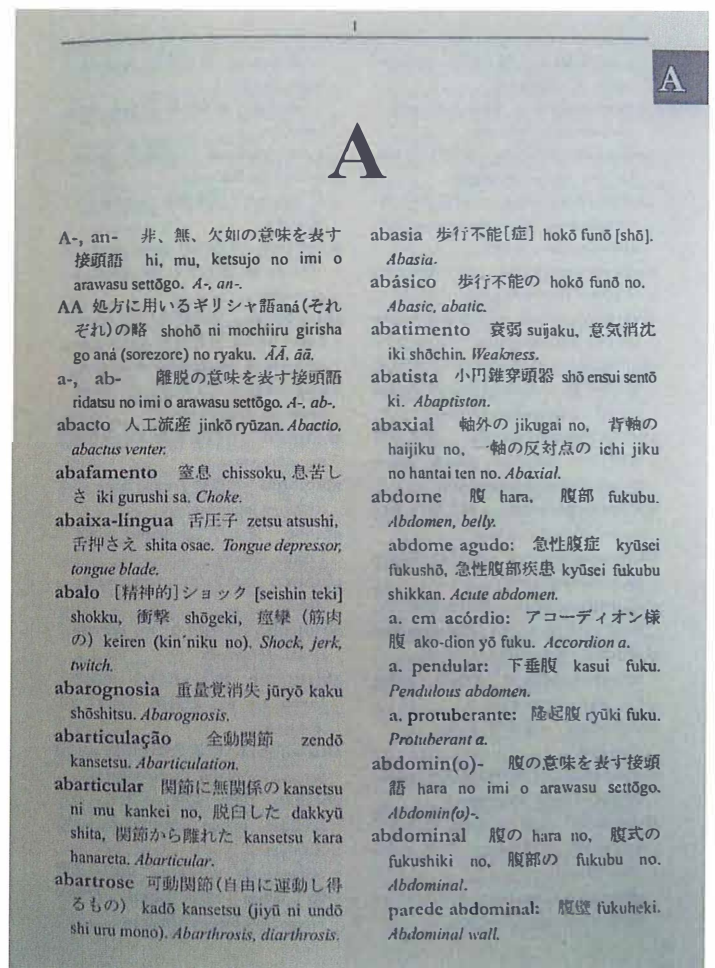
三井住友銀行 神戸営業部
 財団法人日伯協会
 口座番号 1270051

振込手数料は振込人負担としてください

お問合せ先

財団法人日伯協会 事務局

〒650-0003 神戸市中央区山本通 3 丁目 19-8
 海外移住と文化の交流センター 2 階
 Tel&Fax: 078-230-2891
 E-mail: hosoe@nippaku-k.or.jp



本書編纂に関する経緯を後世のために書き遺す

元日伯友好病院院長 南 利実

私が最初に本書「ポ日医学用語辞典」の下書きを目にしたのは、1998年に日伯友好病院で患者を診察していた際の、言わば一風変わった状況が発端であった。

当時、同病院勤務の二・三世の医師の間では、ブラジルに長年住んでいる日本人とその子や孫たちは、ポルトガル語を完全に駆使する義務があることから、患者の応対に日本語は不要である、という意見が出始めていた。しかし、当時であっても、実際には、見過ごされている状況があった。それは、ポルトガル語の会話はおろか、難しい医学用語などほとんど理解できない、一世の高齢者患者が数多く存在していたことであつた。

その他にも、例えば、日伯間の経済関係の緊密化、貿易の拡大による日本人駐在員、観光客の増加などにより、日本語の知識が有用であり続けることは認識されており、その人たちのためにも、医師・患者の意思疎通は重要であつた。

その頃のある日、私は、長年ブラジルに居住している高齢者で、肝臓炎が疑われる日本人患者を診察していた。彼はポルトガル語の「Pancreatite」の意味が解らず、私はその病名を日本語で何というのかを知らなかった。当時の私の日本語能力は“どこが痛い?”の域をあまり超えるものではなかつたのである。

従って、私は、手振り・身振りのほか、腹部を触り、患部を指差して、患者が理解するまで病気について説明しなければならなかつた。しかし、説明すればするほど、患者は混乱するばかりであつた。長いパントマイムの後、患者はようやく理解して、大笑いしながら「肝臓炎」ですか、と言った。私は、ほっと一息ついて、専門用語を一つ習得することの実感を味わつたが、先行きの困難さを悟るに至つた。

数日後、私は、再度、同様な状況に置かれていた。今回の患者は「suprarrenal」の疾患が疑われていた。この患者は東京都出身の、最近来伯した日本の方であつた。

前回と同様のパントマイム・ショウでは時間がかかることを直感して、某受付嬢の助けを求めた。彼女は日本語の会話、読解力がともに優れていることで知られていた。「Suprarrenal」の単語の意味は知らない、と言いつつ、分厚い、カビのにおいがするノート状のものを取り出した。これが私の本書の下書きというべき、草稿との最初の出会いであつた。探していた単語「Suprarrenal」は簡単に見つかった。該当する項目には「Joujin」、とあり、漢字で「上腎」と書かれており、それを見せられた患者は、私の医師としての「実力」に満足し、躊躇することなく、私が勧める検査と治療を受入れてくれた。

診察の後、受付嬢からそのノートを借りて、いくつかのページを捲ってみた。1頁に30語から40語が書かれており、490頁以上の全科に亘る分厚いもので、辞書というよりは医学用語のミニ百科事典である、というのが私の印象であった。この世の中に類を見ない、貴重なものであることを実感し、30分後には全ページをコピーさせて、手を伸ばせば届く場所においたことを申し上げれば、私の気持ちを理解していただけると思う。

本書の編集作業がどれほど大変な作業であったかを読者が理解するために、一例を挙げさせていただく。

例えば、「nankotsu」（軟骨）という単語の場合、「cartilagem acess6ria」（副軟骨）から「cartilagem xifoide」（剣状軟骨）まで、約70のサブタイトルとしての関連医学用語がアルファベット順に記載されている。

私は、著者が訪日の際、数多くの病院を廻り、よく使用される新しい医学用語の情報を得るため、多くの専門家と対談し、質問を行っている様子を想像していたが、暫らくして、本書の編者である、土肥セルジオ・隆三医学博士にお目にかかる機会があった。それまでは、このように重要な、先駆的、独創的で、且つ医師・患者間の意思疎通に重要な役割を果たす労作が、埃をかぶり、カビが生えるような状態に置かれていた理由が解らなかった。編者の説明は「編集作業を行ってから、相当の時間が経過しているため、新しい単語や用語を追加して、内容を更新する必要がある」、というものであった。土肥博士の説明に対して疑いをはさむものではないが、そこまでの作業は行わなくとも、本書のメリットが損なわれることはなく、一大労作としての価値が損なわれることはない、と考えた。このエピソードから土肥博士が、世間並みの野心や欲望、虚栄心や傲慢さといったこととは無関係な、人格高潔な人物であることを確信したのであった。

このたび、あの貴重な下書きがようやく「ポ日英医学用語辞典」（漢字付普）として完成したことを知らされて、大満足である。「決して遅すぎるということはない!」、と思わずにはいられなかったが、これは本書を世のため、人のために役立たせようとする一医師の夢、理想といった高い志がここに結実しているからである。

土肥博士が医師として長年勤務された日伯友好病院の元院長の立場から、本書に関する経緯を後世のために書き遺す榮譽を与えられたことを、出版関係者諸氏に対して衷心より感謝したい。本書が今は亡き土肥博士への深い尊敬の念をもって、博士の日伯関係における最後の貢献として世に出される努力をされた人々に対し、満腔の感謝の意を表明するものである。

2010年12月吉日